

全国学力・学習状況調査の結果について

本年度も全国学力・学習状況調査が4月17日に実施されました。6年生を対象に、国語・算数・理科の3教科について調査を行いました。ここでは、その結果をもとに本校児童の学習の状況や課題についてご報告いたします。

今回の調査は、児童一人ひとりの基礎的・基本的な知識の定着を確認するとともに、思考力や表現力などの活用力を把握することを目的として行われています。調査を通して児童の学習の実態を多面的に把握することで、学校全体としての強みや課題を共有し、家庭や地域と連携した学びの充実につなげてまいります。

【小学校国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

富丘小学校の概要

【内容】

□読むこと

全国平均を上回っている。資料や文章から必要な情報を正確に読み取り、要点を押さえる力が身に付いている。文章構造を理解し、文脈を踏まえて内容を把握する問題にも比較的よく対応できている。

□言葉の特徴や使い方に関する事項

全国平均を上回っている。漢字の正しい使い方や語句の意味理解に関する設問で安定して得点できている。日常的な学習の積み重ねが成果として表れている。

□話すこと・聞くこと

全国平均とほぼ同程度である。インタビューや話合いの場面を読み取り、発言の目的や理由を理解する力はおおむね定着している。ただし、発言の根拠を的確に説明する設問では一部の児童に課題が見られる。

□情報の扱い方に関する事項

全国平均を下回っている。資料の中から必要な情報を的確に取り出すことや、文章と図表を関連付けて整理する問題で得点が伸び悩んでいる。情報を根拠として自分の考えに結び付ける力に課題が見られる。

今回の調査における課題

- 文章や会話における発言の目的や理由を正しく理解し、根拠をもって説明すること。
- 複数の資料を照らし合わせ、関係付けながら自分の考えをまとめること。
- 調べたことや経験を基に、自分の考えを分かりやすく文章に表現すること。
- 文章や会話の構成や表現の工夫に着目し、その意図を捉えて理解を深めること。
- 必要な情報を文章や資料から取り出し、自分の意見や説明に活用すること。

改善の方向

- 発言や記述の目的を捉えるために、前後の文脈や資料を根拠に考えさせる活動を取り入れ、理由を自分の言葉で整理して説明する力を養っていく。
- 複数の資料の共通点や相違点に注目し、必要な情報を整理して比較する学習を行い、自分の意見の根拠を明確に示す力を高めていく。
- 事実と意見を区別しながら、調べたことや経験を基に自分の考えを文章化する練習を重ね、読み手に伝わる表現を工夫する力を高めていく。
- 文章や会話の構成上の工夫や表現方法に着目し、それがどのような効果を持つかを考えさせることで、理解を深める力を育てる。
- 目的に応じて必要な情報を的確に取り出し、それを根拠として自分の考えや説明に活用する学習を通じて、表現の確かさを高めていく。

富丘小学校の概要

【内容】

□変化と関係／データの活用

全国平均を上回っている。伴って変わる二つの数量の関係をとらえる問題や、資料を整理して判断する問題で高い正答率を示している。関係を式や言葉で表し、問題解決に活用する力が定着している。

□測定

全国平均を上回っている。量を測定したり、割合をもとに数量を計算する問題で成果が見られ、身近な場面に即した数量の扱いに強みがある。

□数と計算

全国平均を上回っている。分数や小数の計算、数直線を使った表現などで正答率が高く、数量を的確に捉えて処理する力が育っている。

□図形

全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。平行四辺形や台形の性質を理解する問題ではおおむねできているが、図形を分割して面積を求める課題では得点が伸び悩んでいる。図形の特徴を根拠に説明する力の育成が課題である。

今回の調査における課題

- 異なる分母の分数の加法や減法について、通分を行い正しく計算すること。
- 平行四辺形など図形の性質を理解し、コンパスや定規を用いて正確に作図すること。
- 量感をもってはかりの目盛りを正しく読み取り、その値を答えること。
- 角について理解し、角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の、角の大きさについてわかることを選ぶこと。
- グラフや表を目的に応じて適切に選び、数値や言葉を用いて増減や傾向を説明すること。

改善の方向

- 分母をそろえて計算する過程を丁寧に確認し、図や数直線を活用して意味を理解させることで、計算の確実性を高めていく。
- 図形の特徴を押さえた上で、作図の手順を繰り返して練習し、正しい操作によって図形を構成できる力を育てていく。
- 具体的な測定活動を通して、目盛りの単位や増え方を意識させ、日常生活と関連付けて正しく読み取る力を養っていく。
- 角の性質を作図や操作で確かめさせ、根拠を言葉や式で説明する活動を積み重ねていくことで、筋道を立てて考える力を深めていく。
- 与えられたデータの特徴を読み取り、適切なグラフを選んで表現する学習を進めていくことで、数値や言葉で根拠を示す力を高めていく。

富丘小学校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【内容】

□地球

全国平均を上回っている。水の循環や地球環境の現象に関する問題で比較的高い正答率を示している。既習事項を生活や自然現象に結び付けて理解する力が育っている。

□生命

全国平均を上回っている。植物の花や種子のつくりや発芽の条件に関する知識が定着しており、実験条件を制御しながら考察する力が育っている。

□粒子

全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。物質の性質や状態変化については理解が進んでいるが、観察結果と関連付けて根拠を基に説明する問題で課題が残っている。

□エネルギー

全国平均を下回っている。水の温まり方や電磁石の性質など、実験の結果を基に考察する問題で正答率が伸び悩んでいる。条件を整理し、因果関係を説明する力の育成が課題である。

●水の温度変化や状態変化（蒸発・凝結・氷の融解など）について、粒子の性質と関連付けて説明すること。

●電流や電磁石の性質について、乾電池のつなぎ方やコイルの巻数と磁力の強さとの関係を理解し、適切に説明すること。

●植物の花や種子のつくりや働きについて、受粉や発芽の条件を基に考察し、根拠をもって説明すること。

●土や水など自然事象の特徴について、実験結果や観察結果を基に結論を導いた理由を表現すること。

●金属など身の回りの物質の性質（電気を通す、磁石に引き付けられるなど）を整理し、共通点や違いを理解して説明すること。

○水の変化を実験や観察で確かめ、粒子の性質との関係を考えながら整理し、根拠をもって説明できる力を高めていく。

○実験を通して条件の違いによる変化を比較し、電流と磁力の関係を関連付けて考察する学習を積み重ねていく。

○植物の観察や発芽の実験を取り入れ、得られた結果から因果関係を見だし、自分の言葉で説明する力を育てていく。

○観察記録や測定データを整理し、事実を根拠に結論を導き出す活動を積み重ねていくことで、科学的に説明する力を深めていく。

○身近な素材を扱った活動を通して性質を比較し、共通点や違いをまとめて説明する学習を進めていく。

本校児童が、全国平均と比較して肯定的な回答が多かったもの

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか
- ・友達関係に満足していますか
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
- ・ICT を活用することで、友達と考えを共有しやすくなるか
- ・国語の授業の内容はよく分かりますか
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- ・国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか
- ・国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか
- ・国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか
- ・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか
- ・理科の勉強は好きですか
- ・理科の授業の内容はよく分かりますか
- ・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- ・理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想(仮説)を考えていますか
- ・理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか
- ・理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか
- ・健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか
- ・算数: 解答時間は十分でしたか
- ・理科: 解答時間は十分でしたか

本校児童が、全国平均と比較して否定的な回答が多かったもの

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
- ・学習塾や家庭教師に教わっていますか
- ・学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（全国平均より少ない）
- ・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか
- ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか
- ・理科の学習を生活に活用できていますか

おわりに

本校がこれまで取り組んできた「個別最適な学び」と「協働的な学びの充実」は、子どもたちが自ら進んで“楽習”し続け、学びを深める姿を育ててきました。今年度の全国学力・学習状況調査の結果にも、その成果が表れています。国語では、資料や文章から必要な情報を正確に読み取り、要点を押さえる力に成果が見られ、単元構成の工夫により、学習の見通しをもって意欲的に取り組む姿が定着してきています。算数では、数と計算やデータの活用といった領域で全国を上回り、ICTの活用や協働的な学びを通して、多様な考えを共有しながら理解を深める姿が育っています。理科では、生命や地球に関わる内容で高い成果が見られ、既習を生かしながら追究し、根拠をもって説明する力が着実に高まっています。

一方で、国語の「情報の扱い方」、算数の「図形」、理科の「エネルギー」に関する学習には依然として課題が残されています。今後も教材化や協働の工夫を重ね、「みんながわかる・できる」授業づくりを進めながら、基礎的な力の確実な定着とともに、課題解決に向けた思考力を育てていきます。

また、児童質問紙の結果からは、ICTを活用した学びや地域社会とのつながり、将来の夢や目標をもつ意識などにおいて、全国平均を上回る肯定的な回答が数多く見られました。これらは、地域の皆様やPTAの皆様の日頃からの温かなご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

今後とも、子どもたちが自己を肯定し、仲間とともに学びを深め、未来を切り拓いていけるよう、教職員一丸となって取り組んでまいります。